

研究推進委員会通信

平成30年10月26日

平成30年10月19日（金曜日）・24日（水曜日）・26日（金曜日）に郡上市内で小・中学校の授業研究会に参加する機会をいただき、多くの先生が参加してくださいました。本校の生徒のほとんどが郡上市内の中学校出身ですし、過半数が白鳥中学校出身の生徒です。本校に入学するまでに、「どのような学び方をしてきたのか」「重点としている力は何か」を知ることが授業改善に役立ちます。今回は19日（金曜日）に実施された白鳥中学校主催「第1回授業研究会」と24日（水曜日）に那留小学校で実施された郡上市教育研究会主催「第2回研究会」について報告したいと思います。

白鳥中学校第1回授業研究会



白鳥中学校では、生徒に見通しをもってもらうために、1単元の内容を一覧にしたシラバスを配布していました。そのシラバスには自己評価を記入する欄があり、生徒の学びの成果を残すことができます。私もプレ授業研究会で単元の自己評価シートを作成しましたが、授業内容や目標まで詳しく記載することは参考になると思いました。

また、授業参観中にはタブレットで生徒の様子を動画で記録したり、授業に生徒から直接感想を聞く場面を設けたりするなど、新しい授業研究会の手法に刺激を受けました。このように、様々な事例がめまぐるしく変化している中、私たち教員は文科省が述べているように「学び続ける教員」である必要を感じます。

郡上市教育研究会主催「第2回研究会」



那留小学校では、3組に分かれて那留地区の活性化をテーマに発表しました。授業の運営は生徒がおこない、教員は授業のコーディネイトに徹していました。発表後の振り返りの時間には、それまで後方で参観していた先生方が生徒のノートを観察するために前に押し寄せました。授業の最後にどう生徒が変化したかを見届けるためです。「1時間の授業で生徒がどのように変化をしたのか」を確認することが、生徒の成長に目を向ける第一歩です。今後、「何を学ぶのか、どのように学ぶのか、そして何ができるようになったのかを教員も生徒も認識できるような授業づくり」が求められると思います。

また、今回のような地域の課題をテーマとした「探求」の授業は、中学校・高等学校で実施している Good 郡上プロジェクトでの学びにつながります。「探究」をテーマとした小中高連携の推進に期待できます。